



# 志木三小だより

学校運営協議会スローガン「ともに愛そう わがまち わが学校」

志木市立志木第三小学校

令和4年6月30日

志木市柏町3丁目2番1号

TEL 048-471-1062

## ドロシー・ロー・ノルト博士の「子供が育つ魔法のことば」

～子育てに魔法もマニュアルもないけれど～

校長 関根 久美子

記録的な猛暑です。児童の中にも、体調不良を訴える児童がいます。夏の暑さに慣れていないうちに、30度を超える暑い日が続き、食欲不振に陥ったり、体調不良になったりしています。児童には、体育など屋外の活動の際は、適切な距離をとってマスクを外す、屋内であっても会話を伴わない活動については、マスクを外すように指導しています。また、教職員も同様に、状況を十分に検討し、マスクを外しての指導を行いますので、ご理解ください。保護者地域の皆様も、体調に留意し、お過ごしください。

さて、今年度は外部団体との交流も、再開しているものがあります。志木市が進めている小中一貫教育と同じように、幼稚園、保育園との連携も必要です。幼稚園、保育園は小学校と同じ枠組みの中ではありません。けれども、就学前に「様々な環境で」「様々な方針で」過ごしてきた子供たちが、一つのまとまり（クラス）の中で「学び」「成長」していきます。「何を学んできたのか」「どんな経験をしてきたのか」保育園や幼稚園の情報を小学校が共有し、「どのように学びを進めていくのか」「どんな力を身につけてほしいのか」連携を取り合うことが必要だと思っています。6月は20日、30日の二日間、幼稚園、保育園の先生方を本校にお招きして、1年生の授業を見ていただきました。率直に意見交換もすることができました。このような、取組を広げていきたいと考えています。

先日、私が職員室前の草を取っていると、一人の女の子が「ありがとうございます。」と言って通りました。「何やっているの?」「頑張ってる。」子供たちの素直な言葉です。私はそれでいいと思っています。けれどもこの子は「ありがとうございます。」と言いました。きっと、この子は、自分が家族のために何かしたとき、ご家族から「ありがとう。」と言われているのだと思います。

「ご苦労様」ではなく「ありがとう」であることに意味があります。「ご苦労様」は上位者からの評価の意味合いがあります。「ありがとう」は対等な立場での感謝です。子供であっても、「評価」ではなく「感謝」の言葉が「うれしい」し「心に届き」ます。

また、職員玄関で靴を履き替えていると、男の子が通りかかりました。その子は私の姿を見て「校長先生、行ってらっしゃい。」と言いました。私は、少し驚きながら「行ってきます。」と言うと、その子はもう一度「行ってらっしゃい。」と笑顔で私を送り出してくれました。私は、とてもうれしくなりました。

この子は、私がどこかに出かけるであろうことを、見て取って、出かけていく人にふさわしいあいさつをしたのです。時と場に応じたあいさつができることは、素晴らしいことだと思います。そして、この子はきっと、家庭でも、学校に出かける時、ご家族から「行ってらっしゃい。」と言われているのではないのでしょうか。家族の誰かが出かける時、家に居る家族が「行ってらっしゃい。」と声をかけているのではないのでしょうか。さらには、日常生活の様々な場面で、温かいあいさつが交わされる環境にあるのではないのでしょうか。「いただきます。」「ごちそうさま。」などが自然に出てくるご家庭なのかもしれません。